



シリーズ 先輩に感謝!

今日のろう学校・ろう教育の輝かしい伝統をつくった先輩を紹介します。

トライアスロン物語

長崎県立ろう学校卒業生： 今村 信也 さん

「みんなに出会えて本当に感謝です。」

「トライアスロンをやっている」というと、多くの人から「何でそんな大変なことやるの？ 苦しいのに何が楽しいの？」と聞かれます。確かにレースをやっている最中は苦しいです。

実際に「何でこんな苦しい思いをしなければいけないのか？」 「何でお金まで出してこんなことをしてるのか？」と思うことがたくさんありました。でも、それ以上に価値あるものが得られることが分かっているのも事実なのです。

良い機会を頂きましたので、私が18歳から10年以上トライアスロンをやってきて、得られた魅力を書き出してみました。

整理してみると多くの学びがあることに気づきました。その中の一部を御紹介します。

○ 「やればできる」という感動

マラソンやトライアスロン（ショートからロング）やオープンウォーター（競泳10^{キロ}）などは、やっている最中は苦しいです。「ほんまに苦しいです。」でもその苦しさを乗り越えてゴールしたときに「やり遂げた！」という、この上ない感動とともに「やればできる！」という自分への自信が芽生えます。このことに挑戦している自分自身が好きになりました。自分を好きになるということで、次へのチャレンジへつながりました。

トライアスロンを始めてから私の思考や行動は大きく変わりました。

私は生まれつき聞こえませんが、3歳から20歳まで17年間のろう学校（聞こえない状態）で育ちました。同級生は2～6人で、聞こえる人とは余り会いませんでした（発音が下手なため、聴者の友達をつくる勇気がなかったためというのが理由です）。学校が終わると「家に帰り、ゲームをして、寝て」の繰り返しで18歳までずっと、「聞こえない世界」で暮らしました。

トライアスロンに出会ってから、耳が聞こえる友達がたくさんできました。私のためにわざわざ、筆談をしてくれてその後、合宿や練習会や飲み会や交流会なども誘われ、すごく楽しくて仕方がなかったのを覚えています。聞こえる人との世界を知り、「聞こえない世界」と「聞こえる世界」の二つを持つようになりました。

もし、トライアスロンに出会えてなかったら、「聞こえない世界」のみをずっと歩いていたかもしれないと思います。

ですからトライアスロンに出会えたおかげで今日の私がいると思えるのです。

いまむら しんや

今村 信也さんのプロフィール

- 生まれ：1981年10月12日 大村市
- 学 び：幼稚部から専攻科までの17年間
長崎県立ろう学校 通学
- 卒業後：4年間調理師として働きながら、
トライアスロン活動。24歳から
大阪へ 現在、日新運輸株式会社
の「人事労務」として勤務



写真:日新運輸株式会社勤務 今村 信也さん

いまむら しんや

今村 信也さんからのコメント

子供から大人まで水泳と自転車と陸上の指導をしています。2年後の「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」に向けてトライアスロンと競泳（オープンウォーター）の練習をしています。応援してくれるとうれしいです。

